益 軽井沢自主上映会



多のたたかいこ

中村哲7/26(土)

13:30-15:00 (開場 13:00) 阿波根昌鴻

8/30_(±)

13:30-15:20 (開場 13:00)

中軽井沢図書館 2階 多目的室

軽井沢町長倉3037-18 中軽井沢駅

いい映画を観よう実行委員会では、今後も上映会を続けていきたいと考えています。

お手伝いくださる方を随時募集しています。

集会、地区公民館、お店等での出張上映会もいたしますので、お気軽にご相談ください。

入場無料

カンパのご協力をお願いします。 ペシャワール会への寄付と、チラシ代 等の経費に使わせていただきます。

定員50名様

当日先着 10名様 ネット予約 40名様

駐車場は 町営 中軽井沢駅前駐車場 (中軽井沢駅 東側)をご利用下さい。 開館中に図書館カウンターへ駐車券を持参し、無料券をお受け取りください。

インターネット予約・詳細情報

https://goodmovies.show-room.jp



主催:いい映画を観よう実行委員会 090-9357-2291 (まるやま) 後援:軽井沢町/軽井沢町教育委員会/軽井沢町社会福祉協議会

縄のたたかいを実行されました。 の中に味方を作っていくというしなやかなしたたかな沖 なくしてはいけないといい、 ために土地を守るのだから、 阿波根さんは戦後の伊江島土地闘争において、 くまで続けるのです。 会、能力に応じて働き、 そして地球の資源をすべての人で平等に分け合える社 平和憲法を世界に広め、地球上から戦争も武器もなくす。 では終わらない 「平和の最大の敵は無関心」 必要なだけ受け取れる社会を築 穏やかに相手を説得し、 土地を守るたたかいで命を 阿波根昌鴻さん 命を守る

石原昌家さん(沖縄国際大学教授

愚かさを伝え、 ないということを知ってもらうことです 反戦平和資料館を通して願うことは、戦争のすさまじさ 命の大切さ、二度と戦争があってはいけ

阿波根さんとともにたたかい続けている **謝花悦子さん**(「やすらぎの家」代表)

の顔付きを今でも思い出します くりかえるような新しい喜び、学ぶ喜びを感じていたあ 社会主義を学んで、世の中のこれまでのことが全部ひっ 圧倒されるぐらい真剣な態度で勉強されました。 63才で中央労働学院に入学した阿波根さんは、こちらが

阿波根さんが中央労働学院で学んだ畑田重夫さん

生きる手助けをしてきた医師

と用水路の建設を行ってきた。 NGO 平和医療団日本 (PMS) を率いて、 医療支援

なく、支援の姿勢がまったくぶれることなく、 れてきた。 く評価され、 活動において特筆すべきことは、その長さだけで 一貫していたことだ。一連の活動は世界 から高 中村医師は人々から信頼され、

突然の死は多くの人々に深い悲しみをもたらし う途中、 6万人の命を支えている。 しかし、 かつての干ばつの大地を恵み豊かな緑野に変え、 いま、アフガニスタンに建設した用水路群の水が、 2019年12月。用水路建設現場へ向か 中村医師は何者かの凶弾に倒れた。 その

だが、 中村哲が遺した文章と1000時間に及ぶ記録映像を 線の先に目指していたものは何なのか。 村医師が命を賭して遺した物は何なのか、 方で私たちに強く問いかけもする。 その視 中

現地活動の実践と思想をひも解く。

死 路に立つ目 必要なのは 竹哲医師の生

アフガニスタンで銃撃され、死亡した中村哲医師 (1946-2019)は、現地代表を務めるNGO「ペシャ ル会」として第1回沖縄平和賞を受賞するなど 沖縄とのつながりも深かった。アフガニスタンで開 設する診療所に「戦乱の地域に平和の基地を造る ことで県民の気持ちを代弁したい」との思いで「オ -ス・クリニック」と命名することも語って いた。沖縄に関連して中村医師が残した言葉を振り 返る。(田吹遥子)

「平和の声を沖縄が代弁」沖縄平和賞授賞式 (2002年)

中村さんは、平和賞で贈られた賞金の フガニスタンの山岳地帯に「オキナワ・ピー

ザイ村。同診療所は周辺地域の人々にとって唯 は「アルカイダがいるとの情報で、米軍が集結しつつある」と現地の緊迫感を伝え、「紛争 あればこそ大事。暴力的な解決や、力で力を押さえ込むのではなく、(クリニックを造ること 言の力としたい」「戦乱の地域に平和の゛基地゛ を造ることで、県民の(平和を願う)気持ちを 力を持って代弁したい」と、クリニックへの思いを込めていた。

「平和がいかに重要か体験を通して伝えたい」(2017年)



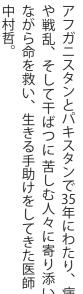
1999年制作/カラー/110分

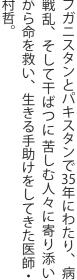
映像文化協会

6月23日 沖縄慰霊の日、8月6日 広島原爆の日、8月9日 長崎 原爆の日には深く平和を祈ります。映画を通して戦争を止 めるよう戦争を伝え、命と自然の尊さ、平和の大切さを分か ち合いたいと思います。

阿波根昌鴻(1901-2002年)が1955年から65年頃にかけ て撮影した膨大な写真(約3200点)から選んだ約350点が 「否戦の心と人間愛の眼 阿波根昌鴻写真展」として沖縄を 皮切りに全国巡回展、開催中です。

阿波根昌鴻写真展をあなたの近くでも開いてみませんか。 市民ギャラリーなどで開催可能です。温かなまなざしの平 和を発信できます。





(株)日本電波ニュー

私たちの平和運動は、

米軍基地を日本からなくしただけ

2022年制作/カラー/90分